

山城

営業・製造部門の体制刷新

組織改編 サービス向上目指す

意匠性金属板保護フィルムの販売、加工を手掛ける城山(本社・名古屋市長東区、社長・加藤隆介氏)は営業、製造両部門の機能強化に向けた体制刷新を行った。3月1日付けで

製販、管理部門全体にわたる大規模な組織改編を実施し、新たな体制を始動した。各部門の強みに磨きをかけて顧客サービスを向上させることで、保護フィルムや関連商品の販売

数量増を目指す。同社はこれまで、営業部を東西両地区で分けて地域に沿った活動を展開してきた。また、

加工部とし、拡張活動を後押しするセクションとして営業企画室を置いていた。そんな中、近年では保護フィルムだけでなく、鋼材運搬用スキッド・木箱の素材となる

自社製品のスキッド用角材「Sdウッド」など取り扱う商材が増え、加工部は製造部に

また、業容拡大に向け、仕入れ先との協力関係強化も不可欠となっている。加工だけでなく流通加工の機能全体へと役割を広げるため、加工部は製造部に呼称を変更した。

営業企画室に代わり、営業だけでなく製販双方に横串を通し、全体を統括するコント

そこで営業部門の指示系統をまとめてスタッフの意思統一を図るとともに、活動の効率化・スピードアップを実現するため、セールズに当たる部門を営業部として一本化した。

今回の組織改正は今年度キックオフした新中長期ビジョンに合わせたものでもある。同社は改編を機に営業・製造・管理各部門の機能強化に努め、さらなる業容拡大を実現したい考えだ。

ロールタワーを設けるため、今回新たに経営企画室を組織した。今回の組織改正は今年度キックオフした新中長期ビジョンに合わせたものでもある。同社は改編を機に営業・製造・管理各部門の機能強化に努め、さらなる業容拡大を実現したい考えだ。